

令和 5 年度 県立結城特別支援学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像	1 一人一人の障害の状態等に応じた指導の一層の充実を図る学校 2 学校教育活動全体をととしたキャリア教育を推進する学校 3 相互理解を深めるための交流及び共同学習を推進し、豊かな心を育む教育を進める学校 加えて、地域と連携した防災教育を進める学校 4 地域における特別支援教育のセンターとしての役割を深める学校			
昨年度の成果と課題		重 点 項 目	重 点 目 標	達成状況
○各教科の目標を踏まえた授業づくりと各教科等の特質を踏まえたICT(タブレット端末含)の活用による学習活動を行い、授業改善に取り組んだ。目標と評価が一体化した教育活動の実践を行い、事例を蓄積し共有する必要がある ○児童生徒の実態に応じた進路の実現に向け、進路指導の全体計画の見直しを行った。小学部段階からの系統的なキャリア教育を推進するため、地域の資源を活用した学習活動や体験活動に積極的に取り組んでいく必要がある。 ○交流及び共同学習を通して児童生徒の経験を広めることができた。活動内容の工夫を行い、人と関わる力の基礎を養い思いやりの心を育てていく。地域と連携した防災教育や、栄養教諭、養護教諭等と連携した健康教育、食育教育の充実に取り組んでいく必要がある。 ○地域の特別支援教育の理解促進のため、ホームページを活用した情報発信を行った。多様な教育的ニーズに応じた巡回相談や体験学習等の充実を図り、適切な学びの場についての情報提供を行っていく。		1 学習活動	①ICT(タブレット端末含)を活用した学習活動の充実を図る。 ②目標と評価が一体化した教育活動を実践する。 ③教員間の連携を基盤とする指導体制の強化を図る。 ④教員の専門性を高めるための校内研修の充実を図る。	B
		2 キャリア教育	①個別の教育指導計画を活用し、関係機関と連携した指導支援の充実を図る。 ②小学部段階からの系統的なキャリア教育の指導の工夫を図る。 ③地域や企業と連携した学習活動及び地域の資源を活用した体験活動を実施する。	B
		3 インクルーシブ教育・安全教育・保健教育	①経験を広め、社会性を養う居住地校交流、学校間交流及び地域交流の充実を図る。 ②児童生徒が互いに認め合い励まし合う集団作りを推進する。 ③地域や関係機関と連携した防災体制の充実を図る。 ④健康の保持増進のための健康教育、食育教育を推進する。	B
		4 センターの機能	①幼保、小・中学校、高校への要請に応じた支援の充実を図る。 ②専門家や地域の関係機関との連携強化を図る。 ③教育活動の地域への公開及び特別支援教育に関する積極的な情報発信に努める。	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価		成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営 管理 教育計画	・安心・安全な学校体制の充実を図る。	・教室環境の整備、避難訓練、シミュレーション訓練等を行い、教員が連携して対応する体制を確認することで、児童生徒が安心、安全に学習に取り組むことができるようにする。	1-③ 2-① 3-③④	B	B	○危機の予測に関するミニ研修を定期的に行い、安心・安全な教育環境を作ることができた。 ●状況に応じて適切に判断し行動できる訓練をしていく必要がある。 ◇状況に応じて教員が連携できるよう体制を確認する機会を設定していく。
	・地域や関係機関と連携した学習活動や体験活動の充実を図る。	・地域資源を活用した学習活動を工夫し、社会性や思いやりの心を育てることができるようにする。	2-②③ 3-①②	B		○地域と連携した学習活動を各部とも増やすことができた。 ●地域資源を活用して、児童生徒の学びを深める学習活動があるか検討する必要がある。 ◇地域や関係機関と連携し、学びを深める学習活動を検討していく。
教職員の 育成及び 指導・監督	・児童生徒一人一人に合わせた適切な支援及び必要な支援の充実を図る。	・何ができればいいかを明確にし、自分からやってみようという意欲をもつことができるようにする。	1-①②④	B	B	○自ら考える場面の設定、頑張りシートやチャレンジシート等で自分から取り組む意欲を高めることができた。 ●児童生徒の実態を常に把握し、支援の工夫をする必要がある。 ◇児童生徒の主体的な学習を促す指導の工夫を行っていく。
		・児童生徒の学習状況を児童生徒の観察や発問の工夫をすることで、適切に把握し、指導の改善に生かすことができるようにする。		B		○授業の改善ポイントを共有し、授業づくりをすることができた。 ●主体的な思考を促す発問の工夫をする必要がある。 ◇授業改善に関する研修を継続し、授業力の向上を図っていく。
対外活動	・本校の教育活動の情報発信をする。	・本校で取り組んでいる内容を様々な観点別に整理し、積極的に発信することができるようにする。	4-①②③		B	○外部参観者のニーズを把握し、学校説明会の内容を工夫することができた。

					B	●卒業後の進路や教育課程について、分かりやすく説明する必要がある。 ◇本校の取組に関する情報発信の工夫をしていく。
	・相談支援体制の充実を図る。	・関係機関と情報交換を行い、巡回相談や専門家と連携した支援等の充実、地域の特別支援教育の理解啓発を図る。			B	○要請に応じ、巡回相談や外部専門家を同行しての訪問を行うことができた。 ●どのような支援ができるかを具体的に例示する必要がある。 ◇地域の特別支援教育の理解を深める取り組みを行っていく。

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない